

平成28年 第1回神戸市役所本庁舎のあり方に関する懇話会 要旨

日時：平成28年6月17日

○事務局 第1回神戸市役所本庁舎のあり方に関する懇話会を開催します。市長より挨拶をお願いします。

○久元市長 懇話会の設置理由、懇話会でどのようなことの検討をお願いするのか、少しお話をさせていただく。

現在の2号館は、昭和32年に建設された。以前は兵庫区松本通りにあった。当時は本庁舎だけではなくて市内の十数カ所に分散をして業務をしていた。しかし、神戸が発展を続け行政ニーズも拡大することで、分散をしているような状態では非効率なため、昭和32年にこの2号館を建設し、そしてさらに行政組織の拡大に応じて、昭和41年に現在の3号館を建設した。平成元年に事務の効率化、あるいはOA化に対応するため、1号館を建設した。

2号館については建設されてから59年、3号館につきましては50年を迎えるということで、老朽化が進んでいる。そして、震災の被害も受けており、2号館、3号館の建てかえを検討しなければいけない時期に立ちいたっているのではないかというふうに考えている。

もう一つ、三宮の再整備の構想の対象エリアに2号館、3号館を含む神戸市の庁舎が入っている。三宮の再整備の基本的な考え方は、神戸らしいよさを残しながら、またつけ加えながらにぎわいをつくっていく。人の流れをつくっていくこと。

旧居留地からさらにハーバーランド、ウォーターフロントのほうに人の流れをつくっていく、回遊性を高めることを考えれば、単に行政機能、庁舎の建てかえということにとどまらず、にぎわいづくりという視点を入れた御検討をお願いできればと思っている。

行政機能のあり方では、当時は分散していた行政機能を集約するということが求め

られた。しかし、最近ではネットワーク、あるいはICTを活用すれば、離れていてもコミュニケーションや、事務処理が可能となった。そうすると、この三宮にならない行政機能というものは何なのかということについて、もう少し絞り込むことができるのではないかと。このような視点も交えた御検討をお願いしたい。

また、庁舎の建てかえは、市民の皆さんの理解を求めるということが必要。庁舎の建てかえよりももっと先にやることがあるのではないかと議論が当然出てくるだろうと思う。このような、観点を踏まえながら市民の皆さんの理解をどういうふうに練っていくのかにつきましても御検討いただきたい。

○岡田会長　市長からお話がありましたように、この建てかえのみならず三宮、ひいては神戸の活性化のために私たちが努力をしなければいけない、あるいは我々の持つておるありったけの知恵を出しあって、御協力いただければと思っております。

○事務局　それでは、議題2の神戸市役所本庁舎について及び議題3の周辺状況について説明させていただきます。

神戸市役所本庁舎の現状と課題

1 ページ目、市役所各庁舎の配置図です。

2 ページ目、本庁舎の一覧表。各々庁舎の工期、工事費、構造、規模、面積等を記載しています。

3 ページ目、本庁舎の1号館です。平成元年に竣工、築27年になります。敷地面積9,512平米、こちらの敷地面積は、1号館、2号館、花時計までを含んでいます。延床面積は52,288平米、構造は、地下3階から地下2階までが鉄筋コンクリートづくり、地下1階から地上2階までが鉄骨鉄筋コンクリート、地上3階以上は鉄骨づくり。規模は、地上30階、地下3階です。

1号館に現在主な入庁局ですが、25階から上は議場などがございまして、市会、その他に企画調整局や行財政局、市民参画推進局などが入局しています。

阪神・淡路大震災で被害を若干受けている。内壁や外壁等に亀裂が入ったり、倉

庫、書庫が損壊した。

課題は空調がセントラル方式ということで、個別空調ができず、細やかな暑さ、寒さ対策ができていない。OA化などにより、各フロアの電源容量不足も発生している。築27年になるため、いずれ電気、空調、機械設備、給排水設備、エレベーター等の更新が必要。

4 ページ目。本庁舎2号館です。昭和32年竣工、築59年。敷地面積は1号館と一緒に9,512平米、延床面積は、14,729平米、構造は地下1階から地上4階までが鉄骨鉄筋コンクリートづくり、地上5階は、鉄骨づくり。規模は、地上5階、地下1階、震災前は8階建てという建物でした。現在入ってる主な部局は、市民参画推進局、建設局、住宅都市局や会計室など。

阪神・淡路大震災での被害状況は、当時8階建ての6階の層全体が崩壊し、7階以上が1.5メートル北側にずれた。8階渡り廊下が落下、内壁、外壁等に亀裂、給水、電気、機械設備等も使用困難。6階の部分が崩壊したが、4階以下の損傷は小さかったため、再利用が可能でした。4階以下を補修及び耐震壁の打ちましなどで耐震性向上を図り、5階部分に新しく鉄骨造で1層増築をした。

課題は、先ほどの1号館と同じように空調がセントラル方式ということで、細やかな暑さ、寒さ対策ができない。老朽化で、電気、空調、機械設備、給排水設備等の老朽化が進んでいる。OA化などにより各フロアの電源容量不足も発生している。トイレスペースなども狭く設備も古くなっている。

5 ページ目。本庁舎3号館です。昭和41年竣工、築50年。3号館の敷地面積は2,247平米、延床面積は18,140平米。構造は鉄筋コンクリートづくり、規模は地上9階、地下1階。

3号館には行財政局、環境局、住宅都市局、交通局、教育委員会が入居。

阪神・淡路大震災での被害状況は、こちらも内壁、外壁、柱に亀裂、倉庫、書庫の損壊。

課題は1号館、2号館と同じく空調がセントラル方式ということで、暑さ、寒さ対策ができない。電気、空調、機械設備、給排水設備等の老朽化も進んでいる。OA化などによる各フロアの電源容量不足なども発生。

6 ページ目。本庁舎4号館、危機管理センターです。平成23年竣工で、築5年ということで、一番新しい建物です。敷地面積は1,357平米、延床面積は9,187平米。構造は、鉄骨・鉄筋コンクリートづくり及び鉄骨造。規模は地上9階、地下1階。入庁局は、危機管理室、消防局、水道局が入居。

7 ページ目。電気・機械室棟です。平成元年に竣工。築27年。延床面積は2,033平米、構造は地下2階から地上1階までが鉄筋コンクリートづくり、地上2階は鉄骨造。規模は地上2階、地下2階。

この電気・機械室棟は、熱源及び管理を一元化し、省エネルギー化、運営の効率化を図るために設置した。ここから電力を1号館から4号館へ。それから、熱源を1号館から3号館に供給しており、中央監視という形で管理を行っている。説明は以上となります。

○事務局 3番の周辺状況についてご説明いたします。

今回本庁舎のあり方を御検討いただく中での一つの観点といたしまして、都心の将来ビジョンならびに、三宮の再整備構想について説明いたします。

『都心の将来ビジョン』は、都心部の将来像を視覚的にまとめたものになっています。こんなまちをつくっていこうというような方向性を皆さんと共有できるように、そういった趣旨で策定したものです。

三宮周辺地区の『再整備基本構想』は、三宮駅周辺について官民一体となって将来像に向かって、進めていくために少し具体的な構想という計画を練っていくために、内容を詰めたものです。

その中身は、大きくビジョンの中で3つの観点を考えている。都市が再生していくためには街の個性、さらには創造性、そしてやはり安全安心、持続可能性、こういっ

た視点は重要だろうと。そういった観点から大きく3つの方向性、心地よいデザインといったまちづくりをしていこう、出会い、イノベーション、そして文化が起こるようなまちにしていこう、しなやかで強いインフラといったものにしていく。こういった観点で整理しています。

安全安心というのを基盤にあるとしますと、まちは心地よさと+クリエイティブ、こういったものの観点でまちづくりを行っていこう、都心づくりを行っていこうということです。

「人の活動」が生まれる場、「新たなモノやコト」が生まれる場、「時間を過ごす」のに快適な場としていく。こういった、エリアがたくさん集まったエリアで、さらにそういったエリアを結ぶというかつなぐインフラ、交通というか回遊性を整えるといったことを目指していきたいと思っている。

「人の活動」が生まれる場といたしまして、三宮の駅前、ここをえきまち空間と考えておりますが、街区が一体となったえきまち空間を人と公共交通優先の、三宮クロススクエアといった、人中心の空間にしていこうという考え方です。

いろんなクリエイティブな活動をしていくといったためには、スタートアップオフィスなどをミント神戸で展開している。

また、東遊園地を芝生化にしていくことで、さらなる魅力的なスペースにしていく、ウォーターフロントももっと魅力的なエリアにしていく。

さらに、人が過ごす空間はそこにとどまるだけでなく、移動するということもあり、移動空間としてのまち並みについても、道路のリデザインなど、まち並みを工夫する必要がある。デザインの観点で例えば、夜間景観についても神戸らしい景観を磨いていくといったことに向かっていく。

そうしたためには、景観デザインコードといったものを定めていたり、またそういったまち並みに点在する、非常に魅力的なエリアをつなぐ交通インフラといったものも新たな交通手段も含めまして整えていくということが必要となる。

また、交通手段だけでなくその交通手段を活用するゾーン内均一料金制と言ったようなソフト的な施策もあわせて導入していくことを検討する。

三宮駅周辺においては、バス停が散在しているので、大きなバスターミナルが要るのではないかということで、中・長距離を集約するようなバスターミナルの整備というものを、この再生基本構想の中で掲げている。

次に、えきまち空間とは、そこを人が自由に回遊できるとともに、集い楽しむ場、まちとして駅とまちが交わる場としてそういった空間をつくっていく考え方です。

そのえきまち空間、特に中心部である三宮クロススクエアについては、人と公共交通優先の空間をつくっていく、そういうように考えています。

えきまち空間は、神戸三宮の外側から広く人を集め、そこからポンプ機能的に周辺の魅力的なエリアに、人の流れ、もしくはにぎわいをつくっていく、そういうようなポイントになるのかなと思っており、この本庁舎の辺りは、まさしくフラワーロード、税関線沿いに向かっていく重要な拠点になるのではないかと考えている。

まちづくりの方針図のオレンジの楕円で書いてるところが、えきまち空間と呼んでおります。

南側の東遊園地については既に今年度、芝生化することによって、より魅力的な場所にしていこうと考えている。

フラワーロードは、夜見ていただくと光のミュージアム構想ということで、税関から北側、新神戸駅辺りまでを光のミュージアムといった形で夜間景観に秀でたストリートにする取り組みをしている。

神戸阪急ビル東館の建てかえが発表され、今工事にとりかかっているが、そこにつきましても三宮の再整備基本構想の内容を踏まえてつくってもらっている。

1階には滞留空間を確保したり、にぎわいを創出するようなイベントスペースを設けている。展望フロア、交流サロンを設けていく。こういった観点も一つのビルの建てかえといった中では、例になるのかなということで、参考的につけました。

○事務局　事務局より補足説明いたします。老朽化しております2号館、3号館は、建てかえを考えていきたいと思っております。また、建てかえに当たりましては、三宮駅前から旧居留地やウォーターフロントへの人の流れを導いていけるような、にぎわいを創出できる施設、こういったものを誘致できればと考えてございます。

委員の皆様にご検討いただきたい課題は、市長の挨拶にもありましたが、このような行政のみの建物にとらわれず、にぎわい施設との合築も含めて、まちの魅力向上や回遊性向上、将来の神戸のためにはどのような建物がふさわしいのか。また、その建物にどのような機能を持たせるのがよいのかといったこと。それから、これまでは行政機能の集約化を図ってきましたが、先ほども話がありましたようにウェブ会議などの活用などにより、行政機能を分散しても十分に本庁機能を果たせるのであれば、例えばそれによって空いた床にさらなるにぎわい施設の誘致なども考えられます。

また、建てかえにつきましては、市民の方にご理解いただくかというような観点も含めまして、いろいろ御意見をいただきたいなというふうに考えてございます。

今回は第1回ということですので、テーマや前提条件を設けずに本庁舎の建てかえについて委員の皆様方の自由な御発想や御意見をいただければというふうに考えています。

○岡田会長　自由に御発言いただきまして、ブレインストーミングということで、さまざまな発想をお出しいただければと思っております。

○平井委員　市民に向けて建替えについての正式な発表というのはまだだとおもうのですが。

○岸本局長　建てかえのスケジュールは具体的には立てておりません。本庁舎の建てかえに当たって、いろんな要素を行政施設の建てかえだけではなくて、先ほど申しましたように、立地の問題も含めてさまざまな視点から御意見をいただいた上で、建てかえの案なり、建てかえのスケジュールなりをとるというふうに考えています。

まず庁舎を建てかえるとすれば、こういう要素をぜひ入れたほうがいいんじゃない

かというような御意見を賜ればということで、こういった形で懇話会をさせていただいています。今、委員おっしゃいましたように、しかるべき時期には、こういった形のこういったスケジュールでということには打ち出しをさせていただく必要があって、それによって市民の皆様の御理解をと思いますが、まだ正直なところそこまでいたってない状況でございます。

○平井委員　ただ単に行政機能の議論することじゃなくて、まちのあり方という全体的なことの中での機能を、まずは御意見をいただいこうということなんだろうとは思いますが、適宜そういうスケジュールということはきちんとしていただきたいと申し上げておきます。

○長濱委員　建てかえというカードを都心再生の中でどう使えるかっていうのは非常に興味がある。

東遊園地、1号館のロビーと2号館の今後建つであろう何か、その辺が全体をパークと呼べるような状況にするのが、重要だと思っています。人の流れを海のほうに伸ばしていくには、このカードはすごく有効だと思います。

イメージとしては、市民に開かれていますパブリックスペース、公園的な場所がそこにあって、1号館のロビーももっと開放されて、東遊園地はオープンスペースの公園みたいな。それがずっと全部つながってきて、そこをずっと回遊していくようなことがあって、K I I T Oやポートセンター、フェリー乗り場までが、海の公園みたいなものとして、つないでいくことができるところが2号館の位置かなと考えている。そういう非常に大きな意味での開かれた神戸パークって言えるようなエリアをどうつくれるかということかなと思います。

民間モデルですけど代官山のヒルサイドテラスみたいな、数珠つなぎにオープンスペースと都市施設みたいなをつないで、滞留スペースもあってみたいな。そういうものがあそこの軸にできていって、おのずとセンター街のほうに行くにぎわいとはまた違う意味での何かこう回遊性みたいなのを、海まで引っ張って行って、K I I T O

のああいいうデザインセンターみたいなもので見学したりとかですね、それができるかどうか、今回のカードをどう使えるかっていうところの一番ポイントかなと思っています。

○福岡委員　　2号館の建てかえを前提として、その低層部の考え方が非常に重要と考えている。この低層部の中で、パブリックパークと言われましたが、屋外であれ、室内であれ、何か非常に公益性が高い機能を持っている空間であるべきだと思っている。市民が積極的に参加して何か自分たちの行動的に、神戸市民として生きる上で自己実現をしていくような場であったり、若者がこれから起業するときや、市外から企業がそこに少しオフィスを出していくとか。そういったものが集積していく場所であって、その中で低層部っていうものがそういった人たちが混じりあうような場所になったらいいんじゃないかなと思います。

大阪にはナレッジキャピタルがあるが、この神戸の2号館の場所も、市民が積極的に参加できるような場所であるべきだと思います。そういう場所をつくるのに確かに行政だけではできないので、民間を入れて効率性を最大限に引き出すような、そういう公園のような場所っていうものが非常に漠然とした意見ですけれども、イメージとしては重要なんじゃないかなと思いました。

○野村委員　　ナレッジキャピタルは知的創造交流の場ということで、できるだけ多様な人たちに集まっていただいて、その多様な人たちの交流の中から、何か新しいプロジェクトなり、ビジネスをつくっていってもらうところ。必ずしもベンチャーだけに限ったことではなくって、大企業も含めて、あるいはもうちょっと言うと経済だけでなくって新しい文化もそこからつくっていくことを目指してる。

今回の2号館、3号館をもし建てかえるとしたら、行政施設だけではなくて、神戸の将来のためにどういう建物、あるいはどういう機能が必要かというお話あったんですが、この資料を見させていただいてると、都心のまちのあり方みたいなことはよくわかるんですけども、神戸市として将来どういう都市を目指しているか、その辺のと

ころがちょっとわからない。ここをどんなイメージを持っているのかを、教えていただきたい。

○事務局　　まず人を中心として考えている。人をまずえきまち空間というところに、そういう心地よい空間をつくって、そこからのにぎわいというものを周辺に波及させていこうというようなことを一番のベースにおいてつくってるというような考え方で

○野村委員　　ここで言われている人っていうのは、例えば観光客なのか市民なのかビジネスマンなのかっていう、それは確実にここだけとはならないと思うんですが、主にどういう方々に来てもらいたいのでしょうか。

○事務局　　ビジョンのほうの冊子の1枚目めくっていただきますとありますけども。日々の刺激と物語が生まれる美しき港町・神戸って書いてます。多文化とか多世代交流、あなたが参加しているまちということで、結局答えは、絞ってないんです。

例えば神戸らしさって何でしょうかっていったときに、なかなかこれっていうものがないんですね。結局はやっぱり神戸を、このまち、都心をつくっているのは人だと。そしたらその人々が一番居心地いい空間をつくっていくことそのものが、結局はそれぞれの人と思う神戸らしさを磨いていく、向上させていくことにつながるんだろう。だからこの特に人が集まるこの都心エリアは、この多文化・多世代交流ができるような誰にとっても居心地のいい空間をつくっていくということが重要だろうという形で取りまとめております。

○石川委員　　ターゲットは誰なのかっていうのはなかなかやっぱり見えてこなかった。

全ての人が居心地のいい空間っていうのはわかるが、どういう人たちに集まってほしいのかを明確にしないと、誰にでもっていう総花的になってしまうとぼやけてしまって、最終的には誰も集まらないというような状況にもなりかねない。ターゲットはしっかりと決めるべきではないかというふうに思いました。

回遊性を高めるためには、点と点をつなぐその間が楽しい空間でないと絶対に歩かない。ウォーターフロントまで結ぶにしても、その間、駅からウォーターフロントまでの間が楽しくなければ絶対に歩かないと思います。その一つの通過点の中に、この庁舎があるわけですから、そこをいかに楽しい空間にするか、さらにつなげる一つの過程として位置づけて考えていかなければならないと思いました。

○事務局　神戸2020ビジョンで、若者に選ばれるまちというのを目指しています。特に若者を引きつける、魅力づくりという観点と、若者の雇用に結びつける、若者の雇用の創出という、特にこの2点、神戸市のソフト面あるいはハード面、施策としては今後進めていきたい。繰り返しますけれども、若者に選ばれるまちというのを一つのキーワードとして、神戸市では今後の施策をつくっていかうとしているところです。

○大谷委員　今まさにおっしゃったような若者に選ばれるまちあるいは住んでみたいまちという要素の中にアートは絶対必要だと思っています。

若い人をどんどん、アーティストを起用していくっていうことの中で、そこに全国から若者が集まってきます。アーティストの卵が。その人たちがだんだん住みついていくんです。そのような、もちろん美術系のアートも必要だと思いますし、先にデザインっていうのがあるんですけども、まずそのアーティストたちが住みつくようなまちにしていくと、若い人が必ず住むっていうことが、大体世界のいろんな地区で起こってます。例えば市役所のロビーがコモンス的なイメージになればええなと思って。いろんな人が交流できる広場というふうなものに考えることができないのかなと思う。

それから回遊性ということに関しても、三宮の駅からフラワーロードにかけては大変可能性があると思っています。

それは、K I I T Oがオープンしたときに、我々が企画した「いざないプロジェクト」では、センター街の入り口でフラッシュモブがあったりとか、まさに市役所の花時計の前で職員に扮した人がジャグリングをしたりとか、いろんな事件が道中で起こ

ってくるというイベントを仕掛けたところ、歩き出すと子供がとにかくついてきて、200人ぐらいが自然発生的に集まってくる。そういうことが定期的に行われるようになれば、つないでいくっていうことは、可能だと思う。

○中右委員　にぎわい施設というのを私もずっと疑問を感じてまして、やはり2号館、3号館建てかえというと何かこう箱物をまた大きなものをつくって、そこに何を入れるかという中身を考えているような感じがしています。

2号館、3号館建てかえといいますけど、それぞれを別に建てかえるのではなくって、一つにまとめてしまってスペースをあけるということも考えられるのではないかと考えてまして、あけたスペースを暫定利用という形でも質の高い利用ができるかと考えています。

東京の青山で、COMMUNE 246という空き地でURさんが暫定利用している。キッチンカーやコンテナハウスを積んで屋台が出ていたりとか、ソーシャル大学があったりとか、そういう形で常ににぎわいがあるような場所になっています。

先ほども誰をターゲットにしてつくるのかというところがありましたが、スペースをあけて暫定利用として使っておくことで、時代に応じて使い方を変えていけるのではないかなと思っています。余り大きな建物は建てずに、あいてるスペースを残しておくということが大事ではないかと思っています。

○南出委員　若者に選ばれるっていう意味では、すごく可能性を感じます。若い人がプロのミュージシャンになりたいという気持ちを持ってライブハウスにやっぱりたくさん来るんです。

今も神戸市さんのまちづくりの社会実験の中で、町なかでストリートライブを行い、そこに人が集まるっていう実験をしているが、何かやれば人が集まるっていうのは実感しています。

今、神戸のライブハウスでは300、400人規模が限界なので、大阪だったら2,000人規模のライブハウスありますけれども。神戸でも1,000人規模の施

設っているのは魅力的と思う。若者が集まるということに関していえば、そういうのが魅力的ではないのかなと少し思ったりしました。

○品田委員　神戸のまちがどうなりたいのかということと、そのときターゲットをどうするのかっていうのは非常に印象に残りました。若者に選ばれるまちっていうのが一つの答えだったと思うんですが、神戸市全体としては必ずしもそればかりでもないようにも思うんですね。そのあたり、どういうふうなまちになりたいのかっていうのを、幾つかコンセプトがあるのであれば、順番に今後お示しいただければと思います。

行政機能の分散化については、2号館、3号館くっつけるどころか全ての行政機能をどっか外に移してもいいわけですよ、極端な話をすれば。ただ国のほうがいろいろ言ってますが、国の官公庁は全く動かないですね。

市民理解の確保の手段というのは、最終的には私、議会だと思うんですけども、やっぱり議会に至るまでにプロセス、プロセスで伝えることっていうのも重要ですし、その手段は多様なやり方があると思います。

○鈴木委員　このまちの真ん中の神戸市役所にノーターゲットの建物が建って、人がにぎわうようになると考えてみると、余りターゲットを絞るよりも、学びたい人、ビジネスの方は学びたい、広いエリアも欲しい、ちょっとこじんまりとしたルームも欲しいとなりますでしょうし、あと子供さんと家族で楽しめるエリアも必要なのではないかな。また、私たちのようなシニアの世代の方も、何か三宮に来て、三宮の界隈を学んだり、見たり、楽しんだりということをしていく場所になるのが一番いいのではないかなと思うんです。市民がちゃんと使える建物、広くても必要ですし、狭くっても必要な分野があるのかなと思います。

観光の中には先ほど言われましたように、文化がありますので、神戸はジャズの創業の地でもあったりというようなことで、いろんな呼び込めるネタはあると思いますのでね。何かそういうものをこう、全部凝縮できるような建物をつくるのはいかなものではないかと。観光客も市民も交わるのでにぎわっていくのではないかな。年齢

も、子供から、ファミリーから、シニアまでというふうに考えていただいたらいいものができるような気がします。

○人見委員　この市役所のあるこの場所にどういう役目、役割を持たすのがいいのかということを議論していくべき。

青森市の市役所の市庁舎の建てかえに当たって、駅周辺はにぎわいの創出の場所だと。庁舎は人のにぎわいの場だ、庁舎は周辺とのつなぎの役割をする、そういったものにすべきではないかといったコンセプトが書かれておりました。まさに神戸の状況を見ても、海があって、駅があって、その真ん中に市役所があるということからすると、同じような役目を担うのかなと。ここはにぎわいの創出というよりも人のにぎわいの場となるべきとこなのかなと、商業的な施設は駅前でそういったにぎわいの創出はしてもらって、ここは商業施設ではない、少し公的な役割を持ったプランにするなど、人が集まる場としてのあり方とか、どんなものがいいのかっていうことをもう少しブラッシュアップしていければいいと思います。

○岡田会長　いろんな話が出てまいりまして、建てかえのみならず、まち全体の三宮エリアのさまざまな動きを勘案していただきながら御意見を頂戴いたしました。

共通しておりますのは、この三宮の活性化、さらには神戸市の活性化ということで共通の御認識を頂戴しているなということを改めて感じたところでございます。今後、きょう頂戴いたしました意見をまとめていただくということでございますので、それをきっかけとして次回からはさまざまな情報を頂戴しながら進めてまいりたいと思っております。

○局長　委員の皆様、今日は本当にありがとうございました。貴重な御意見、ありがとうございました。

こういったことの視点を考えたらどうかとかあるいはこういった視点でもう少し考えたらどうかというような御意見を頂戴いたしました。我々行政の者だけで検討しても絶対出ないような御意見を今日いただきました。いただきました御意見をまとめまし

て、さらにいろいろ調査もいたしまして、次回以降につなげてまいりたいと思います。

今後とも、さまざまな御意見を頂戴いたしまして、せっかくこの三宮の都心の再整備の中における一つの大きなエリアでございますので、それとも整合して、そのこと
によって三宮の都心全体あるいはひいては神戸全体がますます発展できるような形になればなというふうに思っております。